



吉野芳子

現代が生んだ社会問題「虐待やゲーム依存大人の発達障害」ともに考えるために

**問** ①里親やその制度の周知・啓発は虐待の予防や社会的養護への関心のためにも必要。市は力を入れるべき②公的支援をえるような配慮ある親支援を③社会的入院とは④児童自立支援施設の役割と特徴⑤愛光女子学園との交流機会は⑥一般社団法人Columbiaの活動と市の認識⑦WHOはゲーム障害を新たな依存症として認定した。市の対応は⑧大人の発達障害の市の認識と支援内容は

**答** ①里親月間等で周知、理解促進に注力している②親の状況等に配慮した体制構築が重要③生活環境等の事情により引き続き入院すること④不良児童等の健全育成と自立支援のための施設⑤七夕まつりや運動会等の行事で交流⑥居場所のない少女たちに手を差し伸べる意義のある活動⑦研修等へ参加し職員の専門性強化に努める⑧大人の発達障害が理解は重要。精神保健福祉手帳等の取得やサービス導入

**問** ①こまエコマつりの企画の特徴と来場者数、推移②ペランダキエーロの実施までの経緯と今年度の取り組み、モニター講習会の内容と所感③雨水貯留タンクの設置目的と効用④狛江市教育委員会でのSDGsやESDの実践はいかに⑤コミュニティバス「こまバス」の課題。抜本的な改革が必要⑥小平市の取り組みへの認識。

**答** ①多数の体験型ブースなど楽しめる企画で、来場者数1700人と年々増加②国立市を参考に開始。講習会を3回実施。楽しみながら継続して取り組みを伝えている③雨水の有効利用。下水道負荷や浸水被害軽減④SDGsを踏まえたESDが推進されるよう支援方法を検討⑤相互通行や増車、増便など要望があるが市内道路環境等が課題。出来ることからサービス向上に努める⑥行政・住民が一体とした事業展開が出来ていると認識。

安全で持続可能な狛江をめざしたまちづくり〜市民の力と市民の声で推進しよう



三宅まこと

市政課題に関して

**問** ①教科書採択に係る教育委員会等、市民が傍聴可能な会議のネット公開は可能か②人事同意案件について。議会への資料として略歴書以外に当該候補を見定める方法論は③狛江市第四次基本構想素案について。第三次構想と比較して「財政の健全化」の文言が「持続可能な自治体経営」へ変化。財政健全化の視点が引き続き必要と考えるが所見を伺う。

**答** ①特段、例規上の制約はないと考える。②他の自治体の状況を踏まえ検討する。③「財政健全化」も当然に重要という認識の下、限られた財源で持続可能なまちづくりを進めるには、計画的な財政運営が大切と考え、社会変化を捉えてより発展した形で整理した④多様なブラウザ環境への対応を促す。⑤看護学科教員が、医師や福祉関連の多職種とともに、地域の人々から必要とされる活動に取り組み、教育に還元する。⑥桜まつり、市民まつり、いかだレース、社会を明るくする運動で、出店や協賛品の提供など協力をいただいている。⑦緑の基本計画の改定に併せて検討。

④庁内のブラウザ環境について。インターネットエクスペローラー以外のブラウザへの切り替えについて総務部の役割を伺う。⑤市内の潜在的な看護師の実態数値に関し、市では把握していない状況とのこと。東京慈恵医科大学のJANPセンター設立の目的を伺う。⑥スポーツでの街づくりについて。JリーグFC東京と市との接点を伺う。⑦都市緑地法改正に呼応し、地域の狭い狛江市では民有地や民間を活用した緑地空間確保の動きを政策的に検討すべきと考えるが所見を伺う。

⑧スポーツでの街づくりについて。JリーグFC東京と市との接点を伺う。⑦都市緑地法改正に呼応し、地域の狭い狛江市では民有地や民間を活用した緑地空間確保の動きを政策的に検討すべきと考えるが所見を伺う。

⑧大人の発達障害の市の認識と支援内容は

⑧大人の発達障害の市の認識と支援内容は

⑧大人の発達障害の市の認識と支援内容は

用語解説

- ※1…都市に対する市民の誇り、愛着。
- ※2…医師やその他医療専門職等と連携を取り、在宅の患者への看護サービスを提供する訪問看護事業所。
- ※3…コンピューターに動きを指示するために使われるプログラムを学ぶ教育。
- ※4…18歳までの子どもを対象とした、電話やチャット等によるカウンセリングを行う慈善活動。
- ※5…一つの場所で様々な相談ができる場所のこと。
- ※6…農地の上に太陽光パネルを適切な高さや間隔で設置し、作物の収穫と売電による収入が得られるよう考えられたもの。
- ※7…普段から少し多めに食材を買っておき、食べた分だけ新しく買い足し、常に一定量の食材を備蓄しておく方法。
- ※8…二輪もしくは三輪自転車を使い、人力により乗客を運ぶタクシー。
- ※9…本人の了解を得ずに、公にしている性的指向や性自認等の秘密を暴露すること。
- ※10…性的指向や性自認に関係するハラスメント。
- ※11…緊急時にすぐ食品を確保するための様々な支援の体制・活動の総称。
- ※12…品質に問題がないにもかかわらず、市場に流通できなくなった食品を企業等から提供を受けて、食べるものに困っている方に届ける活動。
- ※13…家庭で余った食品を持ち寄り、福祉施設やフードバンクなどを通じて寄付する活動。
- ※14…自宅や職場・学校でもない、自分らしい時間を過ごせる第3の居場所。
- ※15…Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略称。
- ※16…Education for Sustainable Development(持続可能な開発のための教育)の略称。持続可能な社会づくりの担い手を育てる教育。
- ※17…Jikei Academic Nursing Practice Center for Communityの略称。東京慈恵医科大学地域連携看護学実践研究センター。

建設環境常任委員会



委員長 佐々木 貴史  
副委員長 しの 浩司  
委員 加藤 功一  
委員 吉野 芳子  
委員 西山 村 かつ子  
委員 山田 幸子  
委員 辻村 ともこ

社会常任委員会



委員長 小野寺 克己  
副委員長 岡村 しん  
委員 平井 里美  
委員 松崎 淑子  
委員 太田 久美子  
委員 谷田部 一之

総務文教常任委員会



委員長 三角 たけひさ  
副委員長 宮坂 良子  
委員 高木 さとこ  
委員 三宅 まこと  
委員 栗山 たけし  
委員 鈴木 えつお  
委員 石川 和広  
委員 石井 功